

# 「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～「いま」とは・・・既に過ぎ去った過去？～

昨年、日本経済新聞のトップに・・・「揺らぐ人材立国ニッポン 博士減 研究衰退 30年 産官学で意識改革を」という記事が掲載されました。さらに翌日には「空洞化する卒業証書 学び直し 企業も学校も」と書かれていました。

・・・令和4年度のこの生徒指導部通心（信）第29号で・・・ドラッガーが「リスキング・リカレント（新しい知識の習得、学び直し）」の必要性を予測していたことを紹介しましたね。

また、始業式や終業式で、「1日24時間は誰にも必ず等しく与えられている」という話をしますよね。

一つの経営主体を維持していく上で大切なものは「ヒト」・「モノ」・「カネ」と言われてきました。しかし私は、「時間」と「情報」も同様に大切だと思います。

「ヒト」は自己研鑽や研修、必要とする人材を採用することによって量も質も増やすことができます。「モノ」は、研究・開発部門の人材によって生み出され、機能を高めたり、量も増やすことができます。「カネ」は、元手を増やしたり借入れをしたりすることで充足できます。

しかし、「時間」はどうでしょうか。時間は誰にも等しく1日24時間しか与えられていません。増やすことも借りることもできず、限られた24時間を有効に利用するしかないのです。

時間の流れを表す言葉として、「過去」「現在」「未来」があります。辞書にはそれぞれ次のように説明してあります。

- ・過去：過ぎ去った時間
- ・現在：過去と未来の間、いまこの時
- ・未来：これから来る時 将来

企業の経営判断では、「現在」はなく、「いまという過去」しかない  
と私は思っています。

刻々と状況が変化する企業の現場では、「現在」、すなわち「いま」  
は既に過ぎ去った過去なのです。

そう考えると、「いま」できる判断を明日という将来に引き延ばしてはなりません。

「いま」できることは「いま」決断すべきです。「いま」は「いまという過去」に過ぎないのです。

最近、社会の出でからの「学び直し」のニーズが高まっています。仕事に求められる専門知識・技術を身につけ、自分の能力に磨きをかけることはもちろん素晴らしいことです。

しかしその一方で、在学中の時間の無駄遣いについても考えていく必要があると私は思っています。

学業の場は企業の現場と同じで「いま成すべきことを十分に成し遂げているか」「いま成すべきことを明日以降に延ばしていないか」を常に問うていくことが大切です。

「致知」12月号 巻頭の言葉 アサヒビール社友 福地 茂雄



「いま」という時間を無為に過ごしてはいないですか？

「時間は待ってくれない」の言葉をいま一度噛みしめ、「いま」できることを、「いま」判断すべきことを、明日に、先に引き延ばすことのないよう心掛けたいものですね。

そして、この県高生活（学習・部活動・学校行事・HR・友人・・・）で、様々なことを学び、様々な力を身につけるとともに、多くの辛い・苦い経験や思い出、うれしかった・楽しかった経験や思い出、誰かの役に立って「ありがとう」をいっぱい言ってもらったなど、1枚の卒業証書かもしれませんが・・・かけがえのない、いっぱい中身の詰まった、卒業証書にしてくださいね。

